

令和元年 8 月 28 日
愛 媛 大 学

社会共創学部「松山アートまちづくり寄附講座」（松山ブンカ・ラボ）支援事業
「まちと文化とアートの学校」第 4 回スクールを開催
**「被災と文化Ⅱ～文化に何ができるか、
震災後の東北で始まっていること」**

社会共創学部「松山アートまちづくり寄附講座」では、松山市、松山市文化創造支援協議会との共催で「まちと文化とアートの学校」を 8 回に分けて開催します。2019 年度は「まちと文化」「被災と文化」「表現と文化」をテーマに実施しています。

第 4 回は、アーツカウンシル東京の佐藤李青さんをお招きし、「被災と文化Ⅱ～文化に何ができるか、震災後の東北で始まっていること」をテーマに事例を紹介いただき、参加者の皆様とともに社会とアートの重なり合うところを探っていきます。

つきましては、是非取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時：令和元年 10 月 19 日（土）14 時 00 分～16 時 00 分

会 場：愛媛大学城北キャンパス総合研究棟 2 CRI-2

参加費：無料

定 員：30 名（先着順）9 月 1 日（日）0 時より申し込み開始

申込み：メール（bunkamatsuyama@gmail.com）または

参加フォーム（<http://bit.ly/2QTO4zT>）で、

「まちと文化とアートの学校」参加希望、お名前、住所、電話番号をお知らせください。

※空きがあれば、当日もご参加いただけます。

登壇者：佐藤 李青（アーツカウンシル東京）

【総合司会】戸舘 正史（愛媛大学社会共創学部助教、松山ブンカ・ラボディレクター）

※送付資料 2 枚（本紙を含む）

本件に関する問い合わせ先
社会共創学部 戸舘 正史
TEL：070-3795-5403（9:00～19:00）
Mail: today.masafumi.xc@ehime-u.ac.jp

SCHOOL

／ 学び ／ 考える ／ 対話する ／



まちと文化とアートの学校 全9回

アートの視点を切り口にさまざまな領域にわたる現代社会の諸問題について考えていきます。文化、芸術、福祉、教育、まちづくりなどについて、新たな発想や視点から考えていきたい方に最適です。

時間 ▶ 14:00～16:00

会場 ▶ 愛媛大学 城北キャンパス総合研究棟2 (3階・ラーニングcommons2)

定員 ▶ 30名

2019年度テーマ

「まちと文化」

まちを舞台にしたアートプロジェクトの事例や方法論から自分たちが暮らす「まち」を時間軸から捉えなおし、現在の生活と未来の生活について考えていきます。

「被災と文化」

被災地における災厄の悲しみから日常の営みを取り戻していく事例を通じて、生活と表現が密接な関係にあることを考えていきます。

「表現と文化」

例えば表現によって生活のなかで抱える「生きづらさ」からかわれている人たちがいます。人間の営みと表現の関係について、福祉の現場や美術館等の事例を通して考えていきます。



SCHEDULE

- 6月22日(土) まちと文化Ⅰ～まちとアートプロジェクト ——— 土谷 享 (美術家、KOSUGE1-16)
- 7月20日(土) まちと文化Ⅱ～まちを再発見する方法 ——— 尾崎 信 (松山アーバンデザインセンター・ディレクター)
- 9月28日(土) 被災と文化Ⅰ～かなしみを綴ること ——— 高森 順子 (愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター助教)
- 10月19日(土) 被災と文化Ⅱ～文化に何ができるか、
震災後の東北で始まっていること ——— 佐藤 李青 (アーツカウンシル東京・プログラムオフィサー)
- 11月16日(土) 表現と文化Ⅰ～福祉でもないしアートでもない — 山森 達也 (アーツカウンシルみやざき・プログラムオフィサー)
- 12月7日(土) 表現と文化Ⅱ～生きづらさと向き合うアート ——— 今井 朋 (アーツ前橋・学芸員)
- 1月25日(土) 表現と文化Ⅲ～学びの場を考える ——— 豊島 吾一 (今治ホホホ座)
- 2月22日(土) 表現と文化Ⅳ～対話を紡ぐダンス ——— 砂連尾 理 (振付家、ダンサー)
- 2月23日(日) 番外編表現ワークショップ ——— 多田 淳之介 (演出家、東京デスロック主宰)